

滋賀県における「保育士の質」の実態と課題Ⅲ —野洲市・近江八幡市における調査を手掛かりに—

李 霞*

滋賀短期大学 幼児教育保育学科

The State and Issues of the "Nursery Teacher's Competence" in Shiga PrefectureⅢ:
Based on the Investigation in YASU City, OUMIHATIMAN City

Xia LI

Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

抄録：近年、保育の質がますます重要視される中、保育の質を左右する「保育士の質」の低下が懸念され、大いに議論されてきた。しかし、これまでの先行研究では保育士の備えるべき力や資質について解明しているとは言い難い。そこで、保育の質を確保する方策の策定に示唆を与えるべく、平成29年度に、滋賀県野洲市、近江八幡市にて実施された「保育士の質」の実態に関する調査を踏まえて、保育現場で求められている保育士の備えるべき力や資質の究明を試みた。

キーワード：保育士の資質、人間性、専門性、職務内容の理解、豊かな教養

1. はじめに

近年、保育の質がますます重要視される中、保育の質を左右する「保育士の質」の低下が懸念され、大いに議論されてきた。こうした中、保育士の養成機関がますます注目され、その果たすべき役割が問われつつある。とりわけ、短期大学の場合、2年間という短い期間での教育活動により、学生たちを保育現場で求められている「即戦力」に育成する使命を背負っている。他方、今日、保育士を目指す学生の課題が山積しており、とりわけ実習意欲のなさ、保育への主体的な取り組みや問題意識そして研究意欲の欠如、実習日誌・指導計画案の書き方が不十分であること、挨拶ができないこと等、指摘が絶えない。これらの指摘は保育士の養成機関の教育活動の在り方、有効性に大きな問いを投げかけるものとなる。先述したように、短期大学は2年間という短い期間での教育活動により、学生たちを保育現場で求められている「即戦力」に育成する使命を負っている。この使命を全うするためにも、保育現場で求められている「即戦力」の中身をはじめ、保育士の備えるべき力や資質を検討し、それらの育成を意識した教育活動の展開が今後一層求められる。

しかしながら、これまで保育士の備えるべき力や資質に対する検討が十分なされてきたとは言い難

* E-mail: k-lee@sumire.ac.jp

く、保育現場で求められている「即戦力」の中身が解明されるには至っていない。そこで、保育の質を確保する方策の策定に示唆を与えるべく、保育現場で求められている保育士の備えるべき力や資質を究明するための一歩として、平成 27 年度の大津市の調査及び、平成 28 年度の草津市・栗東市・守山市の調査に続き、平成 29 年度には同様の調査を野洲市及び近江八幡市にて遂行した。

2. 研究方法

「保育士の質」の実態及びその課題を究明するために、本研究は野洲市・近江八幡市の保育園（公立・私立）に勤務する正職の保育士及びその所属園の園長先生を対象に、実施したアンケート調査を踏まえて分析を行った。保育士の方には、自身の保育活動を振り返り、自己評価という形でアンケート項目に回答をしてもらい、園長先生には、管理職という立場から、本アンケート調査で開発した保育士の備えるべき力や資質に関する各項目についての重視度をつけてもらった。また、「保育士の質」の確保のために行政側・保育士養成機関の今後の課題を明らかにするために、園長先生へのインタビュー調査も併せて実施した。

3. 研究目的

本研究の目的は、①野洲市・近江八幡市における「保育士の質」の実態においては、公立園と私立園に差があるか、また地域間における公立・私立の差が見られるか。②「保育士の質」の実態において、職歴・年齢・男女の差が見られるか、③保育現場で求められている保育士の資質・能力は何か、現役保育士の資質に見られる課題は何か、④「保育士の質」向上を巡って、行政側及び保育士養成機関が今後取り組むべき課題は何か、を明らかにすることである。

4. 調査の経過

4. 1. 質問項目の開発

本研究においては保育士を対象に行うアンケート調査が土台になっており、信憑性のあるデータを取得するために、アンケートの質問内容の妥当性が極めて重要である。そこで、平成 27 年度に開発し、その有効性が確認されたアンケート項目（①職務内容の理解、②人間性（子どもの成長発達についての深い愛情・理解・倫理性・協調性などを含む）、③専門的知識・技術の習得、④実践力（専門的知識や技術の活用）、⑤保育士としての意識・自覚・責任感（以下、「意識・自覚・責任感」と略す）、⑥豊かな教養、を主軸に計 40 項目、詳細は『滋賀短期大学研究紀要』第 43 号に掲載された「滋賀県における『保育士の質』の実態と課題Ⅰ—大津市における調査を手掛かりに—」を参照）を平成 29 年度の調査時にも使用した。

4. 2. 調査の実施

本調査は平成 29 年 12 月中旬から平成 30 年 1 月末までの約 1 か月半にわたって実施したものである。

- ・ 調査テーマ

「保育士の質」の現状に関するアンケート

- ・ 調査方法

郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

- ・ 調査地域

野洲市・近江八幡市

- ・ 調査対象

公立・私立の保育園に勤務する正職の保育士（保育士歴：3 年未満，3 年～5 年未満，5 年～10 年未満，10 年以上）及び管理職の園長

- ・ 発送数

公立保育園 105 件，私立保育園 148 件の合計 253 件

- ・ 回答数

公立保育園 104 件，私立保育園 137 件の合計 241 件（保育士 220 件，管理職 21 件）

- ・ 回答率

公立保育園 99.05%，私立保育園 92.57% で，平均 95.26%（表 1 参照）

- ・ 調査対象の属性の設定（表 2 参照）

表 1. サンプルの発送及び回収状況

サンプル	合計	公立保育園	私立保育園
発送数	253	105	148
回答数	241	104	137
回答率	95.26%	99.05%	92.57%

表 2. 調査対象の属性設定

地域	1：野洲	2：近江八幡		
性別	1：男性	2：女性		
年齢	1：20 代	2：30 代	3：40 代	4：50 代以上
所属園	1：公立	2：私立		
職歴	1：3 年未満	2：3～5 年未満	3：5～10 年未満	4：10 年以上

5. 調査結果

回収したデータを SPSS による統計分析を行い、以下の結果が判明した。

5. 1. 保育士による自己評価の分析

表 3 で示すように、本アンケート調査で想定している保育士資質の 6 つの軸（①職務内容の理解、②人間性、③専門的知識・技術の習得、④実践力、⑤意識・自覚・責任感、⑥豊かな教養）ごとの得点を見てみると、公立園私立園を問わず、①職務内容の理解と②人間性に関する項目における得点が最も高く、③専門的知識・技術の習得及び⑥豊かな教養における得点が下位にあることが判明した。また、6 つの軸において、④実践力以外の項目については、公立園に所属する保育士の自己評価の平均得点は、私立園に所属する保育士の自己評価の平均得点を上回っていることが見て取れる。

表 3. 保育士の自己評価得点（公立・私立別）

		Statistics					
		職務内容の理解	人間性	専門的知識・技術の習得	実践力	意識・自覚・責任感	豊かな教養
公立園	Valid	93	93	91	92	92	86
	Mean	4.2070	4.2563	3.6886	3.8478	3.9413	3.7384
	Std. Deviation	.44021	.40718	.53689	.44619	.47304	.46322
私立園	Valid	126	127	122	124	125	127
	Mean	4.1468	4.2087	3.6598	3.8934	3.8528	3.6911
	Std. Deviation	.42576	.42099	.41057	.56218	.49653	.48023

表 4. 保育士の自己評価得点（公立地域別）

		Statistics					
地域		職務内容の理解	人間性	専門的知識・技術の習得	実践力	意識・自覚・責任感	豊かな教養
野洲	Mean	4.2429	4.1857	3.5858	3.8190	3.8765	3.7258
近江八幡	Mean	4.1853	4.2989	3.7500	3.8655	3.9793	3.7455

次に、公立保育園に所属している保育士の自己評価の平均得点を地域別に見てみよう。表 4 の通り、本アンケート調査で想定している保育士資質の 6 つの軸（①職務内容の理解、②人間性、③専門的知識・技術の習得、④実践力、⑤意識・自覚・責任感、⑥豊かな教養）において、①職務内容の理解

及び②人間性に関する項目における得点が最も高い一方、③専門的知識・技術の習得及び⑥豊かな教養における得点が下位を占めていることが明らかである。なお、6つの軸における得点において、①職務内容の理解という軸を除いて、残り5つの軸における得点について、近江八幡市公立保育園に所属する保育士の得点が、野洲市の公立保育園に所属している保育士の自己評価得点を上回っていることが確認できる。

表5. 保育士の自己評価得点（私立地域別）

Statistics							
地域		職務内容の理解	人間性	専門的知識・技術の習得	実践力	意識・自覚・責任感	豊かな教養
野洲	Mean	4.0650	4.1367	3.6383	3.8392	3.8408	3.6800
近江八幡	Mean	4.2007	4.2554	3.6733	3.9264	3.8605	3.6986

他方、私立保育園に所属している保育士の自己評価の平均得点についても地域別に見てみよう。表5の通り、本アンケート調査で想定している保育士資質の6つの主軸（①職務内容の理解、②人間性、③専門的知識・技術の習得、④実践力、⑤意識・自覚・責任感、⑥豊かな教養）において、①職務内容の理解及び②人間性に関する項目における得点が高い順位にある一方で、③専門的知識・技術の習得及び⑥豊かな教養における得点が下位を占めていることが確認できる。また、6つの軸における得点のいずれも、近江八幡市の私立保育園に所属している保育士の自己評価得点が、野洲市の私立保育園に所属している保育士の自己評価得点より高い傾向にあることが確認できる。

続けて、保育士の自己評価平均得点を職歴別に見ていく。保育士歴10年以上のベテラン保育士集団の平均得点が全体的には最も高いものの、⑥豊かな教養における得点が職歴5～10年未満の保育士集団及び職歴3～5年未満の保育士集団より低い傾向にあることが判明した。保育士歴10年以上の保育士集団に続き、保育士歴5～10年未満の保育士集団の平均得点は2位につけているが、②人間性に関する項目における得点がすべての保育士集団において最も低い順位にあることが見て取れる。全体的な成績から見ると、第3位を占めるのは保育士歴3～5年未満の保育士集団ではあるが、①職務内容の理解における得点が最も下位にあることが示されている。そして、4つの集団のうち、平均得点が最も低いのは保育士歴3年未満の新任保育士集団であることが判明したものの、①職務内容の理解及び②人間性に関する項目における得点は最下位ではないことも判明した（表6）。

なお、保育士の自己評価平均得点を職歴別でみた時も共通した傾向が確認できる。すなわち、どの職歴集団の自己評価得点においても、①職務内容の理解及び②人間性に関する項目における得点が高い順位を占める一方で、③専門的知識・技術の習得及び⑥豊かな教養における得点が下位を占めていることが明らかである。

表 6. 保育士の自己評価得点（職歴別）

Statistics							
		職務内容 の理解	人間性	専門的知識・技術 の習得	実践力	意識・自 覚・責任 感	豊かな 教養
3年未満	Valid	29	29	29	28	29	28
	Missing	0	0	0	1	0	0
	Mean	4.1121	4.2011	3.4741	3.7540	3.8000	3.6696
3～5年	Valid	27	27	27	27	27	27
	Missing	0	0	0	0	0	0
	Mean	4.0648	4.2284	3.6080	3.7737	3.8296	3.7500
5～10年	Valid	59	60	59	59	58	58
	Missing	1	0	1	1	2	2
	Mean	4.1398	4.1889	3.6427	3.8588	3.8793	3.7629
10年以上	Valid	101	101	96	99	101	94
	Missing	0	0	5	2	0	7
	Mean	4.2351	4.2624	3.7760	3.9529	3.9465	3.6888

そして、保育士の自己評価の平均得点を保育士の年齢別に見てみよう。表7のように、本アンケート調査で想定している保育士資質の6つの主軸のいずれにおいても、高い得点を取得したのは40代の保育士の集団である。一方で、20代の保育士集団の各主軸における得点が低い傾向にあることが明らかとなった。ただし、ここでも共通した傾向として、いずれの保育士集団においても、①職務内容の理解及び②人間性に関する項目における得点が高く、③専門的知識・技術の習得及び⑥豊かな教養における得点が下位を占めていることが判明した。それとともに、20代保育士集団の④実践力に関する項目の得点はベテランの50代保育士集団より高いこと、⑥豊かな教養に関する項目の得点も50代、30代保育士集団を上回っていることが示され、興味深い点となる。これらの点を解明するために、後日追加のインタビュー調査を行ったところ、20代の保育士集団はコンピュータの操作能力及び、外国の情報について敏感であるといった点において、ほかの年齢層の保育士集団より高い傾向にあることが、豊かな教養に関する項目における高得点を取得したと関連していることが判明した。

表7. 保育士の自己評価（年齢別）

Statistics							
		職務内容 の理解	人間性	専門的知識・技術 の習得	実践力	意識・自 覚・責任 感	豊かな 教養
20代	Valid	95	95	95	93	94	92
	Missing	0	0	0	2	1	3
	Mean	4.1079	4.2211	3.5614	3.8088	3.8277	3.7120
30代	Valid	58	58	55	58	56	56
	Missing	0	0	3	0	2	2
	Mean	4.1681	4.1753	3.6742	3.9387	3.9250	3.6295
40代	Valid	46	47	45	47	47	43
	Missing	1	0	2	0	0	4
	Mean	4.2717	4.3085	3.8704	3.9693	3.9617	3.8198
50代以上	Valid	18	18	16	16	18	18
	Missing	0	0	2	2	0	0
	Mean	4.2917	4.2870	3.7813	3.7639	3.9556	3.6944

表8. 保育士の自己評価得点（男女別）

Statistics							
		職務内容 の理解	人間性	専門的知識・技術 の習得	実践力	意識・自 覚・責任 感	豊かな 教養
男性	Valid	14	14	14	14	14	13
	Missing	0	0	0	0	0	1
	Mean	4.2857	4.3214	3.6131	3.9603	4.0143	4.0000
女性	Valid	205	206	199	202	203	196
	Missing	1	0	7	4	3	10
	Mean	4.1646	4.2225	3.6763	3.8680	3.8818	3.6913

保育士の自己評価の平均得点をさらに男女別に見ていくと、本アンケート調査で開発した保育士資質の6つの主軸の③専門的知識・技術の習得以外の項目について、男性保育士の方が女性保育士よりも高い得点を取得していることが判明した（表8）。これとともに、表8からも、男性・女性を問わず、保育士の資質の①職務内容の理解及び②人間性に関する項目における得点が、6つの主軸の得点にお

いて最も高い順位を占めていることが見てわかる。ただ、得点の下位に位置付けられている内容を具体的にみていくと、男性の場合は、③専門的知識・技術の習得及び④実践力となっており、女性の場合は、③専門的知識・技術の習得及び⑥豊かな教養となっていることが明らかとなった。

保育士には自己評価という形で本調査で開発したアンケート 40 項目に対する回答とともに、この 40 項目のうちから、①最も重視すべき項目及び②自身の最も抱えている課題を 3 つずつ選択し、記入することを求めた。回収した回答を集計した結果、最も重視すべき項目としては、項目⑤子どもの人権を尊重すること、項目⑥子どもの思いに寄り添い温かい受け答えをするなど、日頃から子どもと心が通じ合うこと、項目⑭子どもの気持ちに共感し、受容するとともに、一人ひとりの子どもの抱えている個別課題を見つけ、適切に対応することの 3 つの項目が最も多く選ばれた。なお、項目⑤と項目⑥は本研究で開発したアンケート質問項目の人間性という主軸に当たるものであり、項目⑭は実践力という主軸に当たるものである。他方、自身の最も抱えている課題に対する回答から、項目⑲パソコンスキルなど事務能力の習得、項目⑳保育・幼児教育に関する専門的知識・技術の習得（ピアノ・歌唱・造形・身体運動・園芸など）、項目㉑子どもの発達（発達の特徴及び対応の仕方）に関する専門的知識や、子どもの育ちを見通し、その成長・発達を援助する技術の習得の 3 つの項目が最も多く選ばれている。項目㉒は豊かな教養に関する内容であり、項目㉓及び㉔は専門的知識・技術の習得に当たるものである。

5. 2. 管理職への調査で見えてきたもの

5. 2. 1. 保育現場で求められている保育士の資質の中身

今日、保育現場で求められている保育士の資質・能力とは何か、を究明するために、本調査は保育園の管理職である園長に対するアンケート調査も同時に行った。保育士へのアンケート調査で用いた項目と同様なものを管理職の園長先生にも配布し、各項目に対する重視度を 5 段階評価という形で点数をつけてもらった。

表 9 のように、本アンケート調査で想定している保育士の資質の 6 つの主軸の①職務内容の理解及び②人間性に関する項目における得点については、私立園が公立園よりも高いことが判明した。つまり、公立園よりも私立園の方が保育士資質のこの 2 つの側面に対する重視度が高いことが示唆される。他方、全体的に見た時、公立園私立園を問わず、両者とも最も重視しているのは保育士の①職務内容の理解及び②人間性である一方で、③専門的知識・技術の習得及び⑥豊かな教養に対する重視度は下位にあることが表 9 の通り示されている。ただし、私立園の場合は、③専門的知識・技術の習得及び④実践力よりも、⑥豊かな教養に対する重視度が高いことは公立園との違いとなっている。この違いについて、私立保育園の掲げている教育理念と密接に関連していることが、後日に実施した追加のインタビュー調査によって明らかとなった。

表9. 保育現場で求められる保育士の資質（管理職への調査）

Statistics							
		職務内容 の理解	人間性	専門的知識・技術 の習得	実践力	意識・自覚 ・責任感	豊かな 教養
公立	Valid	11	10	11	11	11	8
	Mean	4.5455	4.5833	4.1515	4.2929	4.3273	4.1875
	Std. Deviation	.48500	.50461	.55002	.49259	.49212	.53033
私立	Valid	10	10	10	10	9	10
	Mean	4.6250	4.6333	3.7333	3.9111	4.1778	3.9500
	Std. Deviation	.41248	.38329	.54546	.49079	.47376	.67495
全体平均	Valid	21	20	21	21	20	18
	Mean	4.5833	4.6083	3.9524	4.1111	4.2600	4.0556
	Std. Deviation	.44253	.43688	.57528	.51759	.47727	.60970

5. 2.2. 保育士の資質における課題

管理職の園長に、アンケート調査で各項目に対する重視度を5段階評価で点数をつけてもらうと同時に、所属園の保育士全体の抱えている課題、とりわけ3年未満の新任保育士の抱えている課題について、自由記述という形で回答をしてもらった。回収した回答を集計した結果、まず、保育士全体の抱えている課題として「コミュニケーションをとる時間や研究を行う時間が取れない」「クラス運営上の連携が取れていない」「研修や協議会の内容に関する共通理解を図れない」「スキルアップのための時間が取れない」「教材研究や保育準備の時間が取れない」といった、保育現場の多忙さに由来するものがほとんどであることが判明した。他方、3年未満の新任保育士の抱えている課題については、「基礎学力及び専門的知識・技術を身につけていない」「社会人としてのマナーや常識を身につけていない」「受身的な姿勢である」「業務能力が足りない（子ども理解・保護者援助）」「協調性がない（報告・連絡・相談ができていない）」「自ら学ぶ姿勢が足りない」といったことが指摘された。これらの指摘から、3年未満の新任保育士の課題として、主に人間性、専門的知識・技術の習得、実践力、保育士としての意識・自覚・責任感、豊かな教養といった面に点注していることが示唆される。

5. 2.3. 「保育士の質」向上を巡って行政及び保育士養成機関への要望

「保育士の質」向上を巡って行政への要望について管理職に回答をもらったところ、仕事量の軽減・処遇の改善・安定雇用・正規採用の拡大・キャリアパスに対する見直しなど、保育士の仕事の

量的軽減や、処遇の改善をはじめとする働きやすい環境の整備とともに、職員配置基準の見直し・研修等の学ぶ機会を増やすこと・園への研修補助金の増額（私立も公立並みにすること）などキャリアアップのための支援体制づくりに関する意見が多くあった。

他方、「保育士の質」向上を巡って、保育士養成機関への要望として以下の内容が多かった。すなわち、①基本的なマナー・常識・コミュニケーション力を身につけさせることによって、人間性豊かで社会性のある人に育てること。②保育計画や実技などを実習に来るまでにしっかり身につけることや、保護者や園児に対する個別対応の習得、保育園、子ども園、幼稚園の違いを知ることなど、基礎学力・保育の専門的知識・技術を習得させること。③保育実習に取り組む姿勢を正しくすること。④現場への理解を深め、現場の職員との交流の機会を作ること。⑤公立園私立園それぞれで行われている保育の特徴を知ること。⑥人材確保のための取り組みなどである。これらの内容には、保育士として職務内容についての理解、保育や子育て支援に関する専門的な知識及び技術の習得といった、保育士養成機関がこれまで注力してきた教育内容の定着に関するものもあれば、マナー・社会性・積極的な態度など、人格の形成や一般的な教養に関する内容もあった。さらに、保育士養成機関と保育現場との連携や、人材確保に関する取り組みといった、従来行政部門の担う内容まで含まれていることが明らかとなった。保育士養成機関への要望から、今後、保育士養成機関は、保育に関する専門的知識・スキルの育成はともかく、学生の豊かな教養・人間性の育成などに関する取り組みとともに、行政や保育現場との連携を強める必要があることが明らかとなった。

6. まとめと展望

以上のように、本研究で実施したアンケート調査で得たデータを踏まえて、本研究の目的に掲げている4つの課題について以下のようにまとめておきたい。

まず、アンケート調査の結果から「保育士の質」の実態を、公立園と私立園に分類してみたとき、本調査で開発した保育士の資質の6つの主軸の実践力という主軸を除いて、公立園の得点が私立園より高い傾向を示していることが明らかとなった。次に、地域別でみたとき、公立園・私立園とも近江八幡市の得点が野洲市より高くなっていることが判明した。そして、本調査において、職歴3年未満の新任保育士及び、20代の保育士とともに、自己評価平均得点がほかの職歴・年齢集団の保育士と比べて、低い傾向にあることや、本調査で想定している保育士の資質の6つの側面において、専門的知識・技術の習得という主軸を除いて、男性保育士の自己評価平均得点は女性保育士より高いことが分かった。

さらに、本調査を通じて、保育現場で求められている保育士の資質の中身についても有意義な探究ができた。すなわち、保育士側から見れば最も重視すべきは保育士の人間性と実践力となっている。これに対して、管理職にとっては最も重視すべきは保育士の職務内容の理解及び人間性であることが明らかとなった。これとともに、現役保育士の資質における課題も明らかとなった。すなわち、保育

士側から見れば、今後豊かな教養及び専門的知識・技術の習得が課題となっている。一方で、管理職の立場から見れば、特に3年未満の新任保育士の課題は、人間性、専門的知識・技術の習得、実践力、保育士としての意識・自覚・責任感、豊かな教養といった面に点在していることが判明した。特に、保育士の抱えている課題については、保育士の自己評価と管理職の意見にズレが存在していることは興味深い。

なお、「保育士の質」向上を巡って、行政側及び、保育士養成機関側の課題も判明した。前者については、保育士の仕事の量的軽減や処遇の改善など、保育士にとって働きやすい環境の整備、キャリアアップのための支援体制づくりが求められている。後者については、今後、保育に関する専門的知識・スキルを伝え教えることはともかく、学生に豊かな教養や人間性を身につけさせること、保育現場や行政との連携をよりいっそう強めることが求められているのである。

アンケート調査で判明した上記の結果にはサンプルによる一定の限界が存在するものの、この結果から、今後のさらなる検討課題が浮かび上がった。まず、公立園・私立園における保育士の自己評価の得点に見られる差、そして、野洲市・近江八幡市での調査で判明した地域間の得点の差は、保育士の資質の向上を巡って、それぞれの園や地域における取り組みとどう関連しているのかということである。次に、本調査で最も低い得点にとどまった職歴3年未満の新任保育士や20代の保育士の集団は、今後保育現場をリードしていく存在である。そのため、今後、こうした集団の保育士の力量や資質の向上を巡って、どのような取り組みや工夫を講じるべきかということである。さらに、本調査において、保育士の資質における課題について、保育士自身の評価と管理職による評価とのズレがどうして生まれたかということである。

これらの課題に対する検討が保育現場で求められている「即戦力」の育成、即ち「保育士の質」の向上につながるため、今後の研究において引き続き注目していきたい。

謝辞

本調査は滋賀県地域共生型社会推進活動助成金（平成27年度～平成29年度）及び平成29年度滋賀短期大学学長裁量経費による支援を受けている。また、本研究の遂行においては野洲市・近江八幡市の関連行政部門をはじめ、保育現場の多くの先生方のご協力を頂いている。これらのことを付記し、深く御礼を申し上げる。

文献

- 1) 稲毛文恵「保育の質から見た保育園の現状と課題」『立法と調査』第 345 号，参議院事務局企画調整室，2013 年。
- 2) 「日本再興戦略」2013 年 6 月 14 日，www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/saikou_jpn.pdf。
- 3) 野辺英俊「保育制度の現状と課題」『調査と情報』第 667 号，社会労働課，2010 年。
- 4) 山田智子，那須信樹，森田真紀子，「保育士の質向上につながる評価票ベースの継続的実習指導」『中村学院大学・中村学院大学短期大学部研究紀要』第 43 号，pp.133-142，2011 年。
- 5) 大豆生田 啓友，「保育園において「保育の質を高める」ための工夫（保育者の資質向上と研修のあり方，保育フォーラム，第 3 部 保育の歩み（その 2）」『保育学研究』第 49 号，pp.325-327，2011 年。
- 6) 河嶋喜矩子「自主シンポジウム 22」『日本保育学会大会発表論文集』57 号，p.45，2004 年。
- 7) 門倉文子「初任保育士（新採用職員）についてどう思うか」『保育士の資質向上に関する調査 研究報告書－平成 17 年度－』日本保育協会，p.22，2005 年。
- 8) 安見克夫「自主シンポジウム 22」『日本保育学会大会発表論文集』57，p.45，2004 年。
- 9) 中村博武『保育実習生受け入れ保育園の問題意識』『ブール学院大学研究紀要』44 号，p.139，2004 年。
- 10) 佐藤達全「保育科学生の文章表現力について」『育英短期大学研究紀要』19 号，p.70。2002 年。
- 11) 中平絢子・馬場訓子・高橋敏之「保育園保育における保育士の資質の問題点と課題」『岡山大学教師教育開発センター紀要』第 3 号，pp. 52-60，2013 年。
- 12) 伊勢正明「保育者の基底を支持する専門性の探求と真宗保育」『帯広大谷短期大学紀要』第 50 号，pp.85 - 98，2013 年。
- 13) 鯨岡峻「保育者の専門性とは何か」『発達』83 号，pp.53 - 60，2000 年。
- 14) 岡本浄実・尼崎光洋「保育者の省察評価尺度の開発」『地域政策学ジャーナル』第 4 巻第 2 号，pp.27 - 38，2015 年。
- 15) 沢文治「保育者の専門性とは何か」『保育と専門性』，pp.127 - 147，1980 年。